

豊川総合水系環境整備事業 説明資料

平成27年9月25日

国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所

目 次

1. 事業の概要及び評価の視点	
①事業の目的及び概要	1
②事業の計画内容と投資効果	2
③事業の必要性等	
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	3
2) 事業の進捗状況	4
2. 県への意見聴取結果	5
3. 対応方針（原案）	5

1. 事業の概要及び評価の視点

①事業の目的及び概要

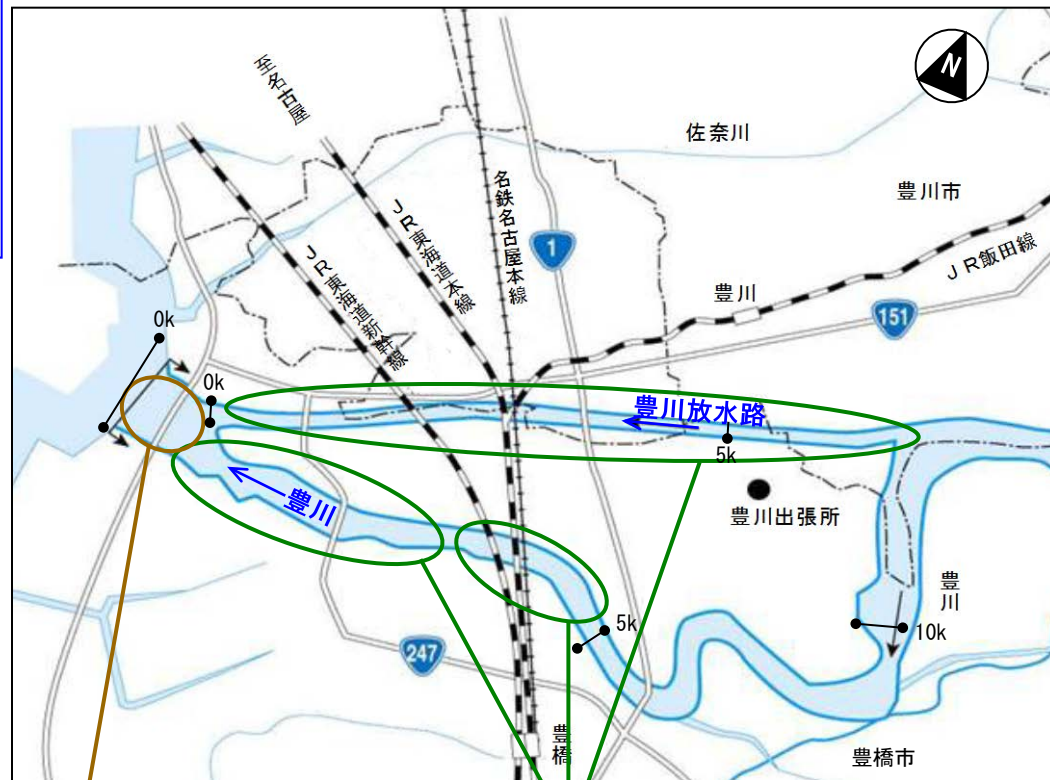
【事業の目的】

- 豊川下流域は、かつて干潟やヨシ原が広がり、生物の良好な生息・生育場となっていました。が、宅地化、市街化や河道整備等によりこのような環境が減少しました。
このため、豊川下流域において干潟やヨシ原の再生を図り良好な河川環境を創出します。

【事業の概要】

- 事業区間：豊川、豊川放水路
- 建設工期：平成13年度～平成30年度
- 全体事業費：約39.4億円
- 整備内容：自然再生（干潟再生、ヨシ原再生）
- 費用対効果：B/C=2.4（H24再評価時）

対象事業の実施箇所



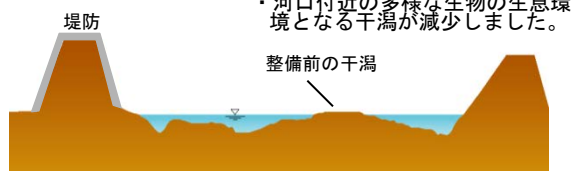
自然再生（干潟再生）

自然再生（ヨシ原再生）

②事業の計画内容と投資効果

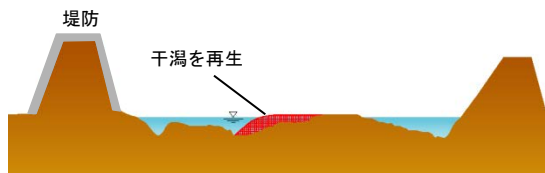
計画内容

整備前（干潟）

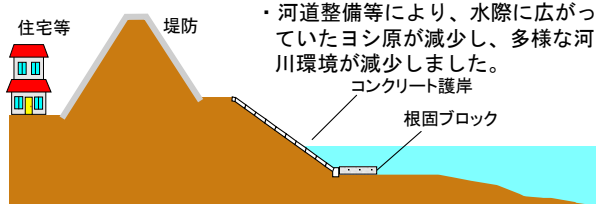


整備後（干潟）

・砂を投入して干潟を造成し、渡り鳥やアサリ等貝類など多様な生物が生息しやすい環境となります。

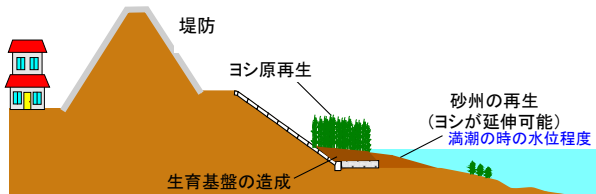


整備前（ヨシ原）



整備後（ヨシ原）

・水際のヨシ原を再生し、オオヨシキリなど多様な生物が生息しやすい環境になります。



豊川河口域



（干潟創出前の豊川河口域）

豊川河口域



（干潟創出後の豊川河口域）

豊川放水路5.9k付近



（ヨシ原創出前の豊川放水路）

豊川放水路5.9k付近

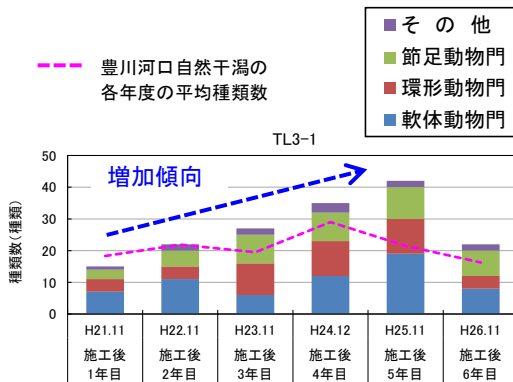


（ヨシ原創出後の豊川放水路）

投資効果

①干潟を利用する生き物の状況

干潟を利用する生物の種類が増加傾向です。



アサリ



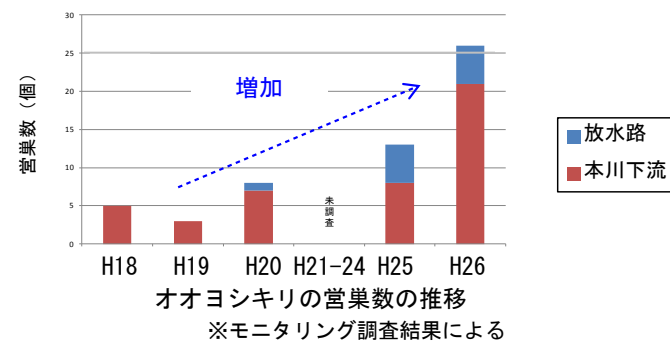
イソシギ

効果

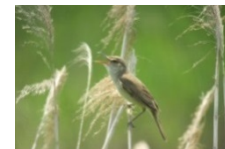
施工した干潟で確認された底生動物の種類
※モニタリング調査結果による
※H26は自然干潟でも確認種数が減少している。

②ヨシ原を利用する生き物の状況

ヨシ原に依存するオオヨシキリの営巣数が増えています。



オオヨシキリの巣



オオヨシキリ

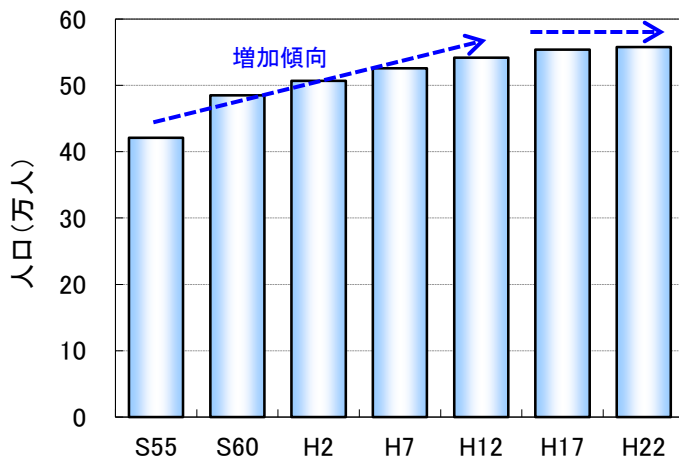
効果

③事業の必要性等

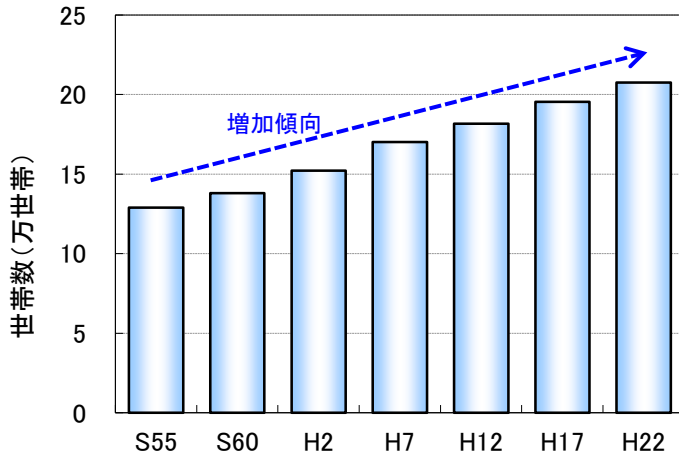
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 豊川下流部の人口は平成17年までは増加傾向でしたが、近年は横這い傾向にあります。
- ・ 豊川下流部の世帯数は年々増加傾向にあります。

- ・ 豊川流域内は、新東名高速道路（平成27年度末開通予定）、東名高速道路及び主要国道、JR東海道新幹線等の重要交通網が整備されています。

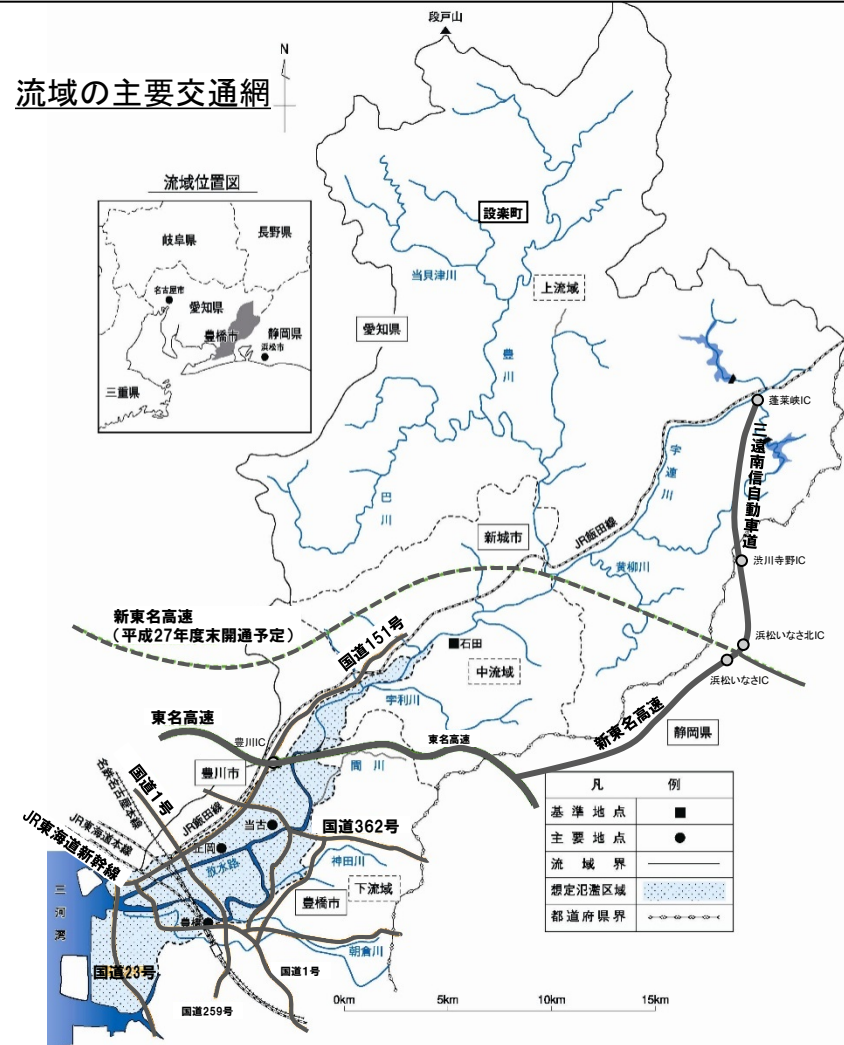


豊川下流部の人口の変遷



豊川下流部の世帯数の変遷

(出典：国勢調査；豊橋市、豊川市の合計値)



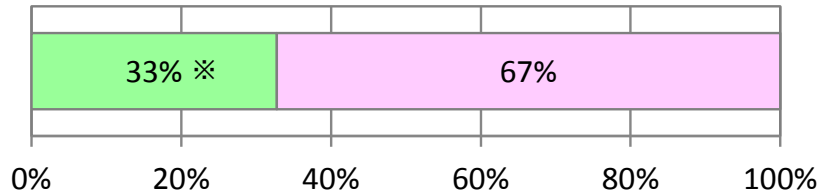
2) 事業の進捗状況

- ・全体の進捗率は平成27年度末事業費ベースで約33%となっています。
(参考：前回評価時の事業進捗率は約28%)
- ・地域と連携した取り組みと一体となり事業の進捗が図られています。

事業の進捗率

- 事業実施済み
- 事業未実施

全体事業費：3,940百万円
 実施済み：1,290百万円
 残事業費：2,650百万円



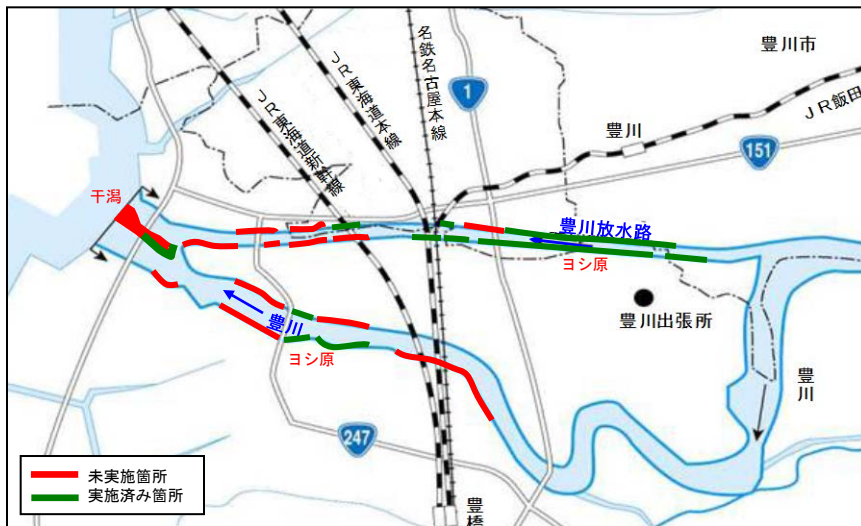
※整備内容毎の進捗率は、
 干潟：約38% ヨシ原：約30%



川と海のクリーン大作戦（豊橋市）の様子



干潟での生き物観察会(底生生物の観察)



2. 県への意見聴取結果

○「対応方針（原案）」案に対して異議はありません。

- 1 なお、今後も事業効果を把握しながら、事業を実施していただくとともに、コスト縮減への配慮についてもお願いしたい。

3. 対応方針（原案）

- ・ 事業実施箇所では、干潟・ヨシ原の再生に伴い多様な生物を確認するなど、事業の効果が認められます。
- ・ NPO等が生物の観察会を行うとともに、地域住民等により清掃活動が行われるなど、河川愛護の意識も高まっています。地元自治体等も本事業に対して協力的であり、更なる事業の推進が期待されます。
- ・ 以上のことから、事業を継続します。